

南陽市長選

白岩氏が初当選

投票率
68・69%

6983票差、塩田氏破る

任期満了に伴う南陽市長選は13日、豪雨災害の爪痕が残る中、投票が行われ、即日開票の結果、新人で元市議の白岩孝夫氏(45)＝赤湯＝が、現職の塩田秀雄氏(61)＝荻＝を6983票の大差で破り、初当選を果たした。投票率は68・69%で、2006年の前回(66・42%、平日投票)を2・27ポイント上回った。

白岩氏は、自民、公明両党の県組織から推薦を受け、告示前から市議時代の後援会が中心になり精力的に活動してきた。自民の鈴木憲和衆院議員、南陽支部長の佐員全健県議、市議7人の後押しを受ける厚い支援態勢で、不安視された知名度不足を解消。手堅く保守層をまとめ、子育て中の

同世代の共感も受けたほか、現市政への批判の受け皿ともなり、大栗田の赤湯、沖郷地区で大きく支持を伸ばした。建設中の新文化会館整備など大型事業を前面に打ち出す塩田氏の市政運営に対し、将来の財政不安を指摘しながらトップダウン的と

白岩 孝夫 45 無新

①無職②東北学院大③赤湯小PTA会長。市議、市三幼会長。当1
(①職業②最終学歴③主な経歴、当選回数)



初当選を決め万歳する白岩孝夫氏(前列右から3人目)
＝南陽市赤湯の選挙事務所

開票結果

(選管最終)

当	白岩 孝夫	無新	12,716
	塩田 秀雄	無現	5,733

批判。現状に危機感や不満を持つ有権者に幅広く浸透した。
3選を目指した塩田氏は市長としての2期8年の実績と30年の政治経歴を訴えた。全国初の木造大型耐火

建造物となる新文化会館整備を交流人口拡大や地域活性化につなげ、地方再生のモデルケースにしたいと主張したが、根強い現状への批判の流れを変えることはできなかった。

当選を決めた白岩氏は、「豪雨被害対策、復旧にまずは全力を注ぐ。その上で農業、子育て、福祉などの分野で対話を重ね、身の丈に合った市政運営を行いたい」と語った。